

SSS016-P03

会場:コンベンションホール

時間: 5月24日17:15-18:45

リアルタイム観測に対応したデータロガーの接続によるK-NET95型強震計の有効活用

Practical use of the K-NET95 accelerograph by connecting to data logger adapted for the real-time observation

赤澤 隆士^{1*}, 荒木 正之², 伊藤 貴盛³

Takashi Akazawa^{1*}, Masayuki Araki², Takamori Ito³

¹地盤研究財団, ²セントラルコーポレーション, ³東大情報学環/地震研

¹G.R.I., ²Central Corporation, ³III/ERI, Univ. of Tokyo

2009年, 我々は, 4ch仕様の安価なデータロガー「KS-001」の開発に携わった。KS-001は, データロガー「AK-001」をベースとしており, リアルタイムデータの送信(最速で100msec毎に10sample)と長時間連続記録の保存(32GBのSDHCカードの利用で約8.5ヶ月分)を可能としている。KS-001では, これにGPS受信器とバッテリーを搭載することで, 高い時刻精度と長時間動作を保証している。2010年には, 8ch仕様のデータロガー「KS-002D」を開発した。KS-002Dは, AK-001の後継機として開発された4ch仕様のデータロガー「AK-002」をベースとしている。KS-002Dでは, 例えば, 関西一円に速度型強震計を展開している関西地震観測研究協議会(関震協)で採用している強震計から出力されるフルスケール200cm/sと5cm/sの2種類の信号を全て入力することができる。これにより, 広帯域にわたり高い記録精度が保証される。

我々は, K-NET95型強震計に内蔵されている加速度計(V403BT)を, 上述したAK-002へ接続することを試みた。この試みは, 基本的に, 収録部が機能しなくなったK-NET95型強震計を対象としている。この接続により, 動作しなくなったK-NET95型強震の有効活用が期待されると共に, 比較的安価にリアルタイムデータの送信や長時間連続記録の保存が可能となる。

キーワード: 強震計, データロガー, リアルタイム

Keywords: Strong-motion Seismograph, Data Logger, Real Time